

住民意識からみた住区内街路の計画目標について

大阪大学工学部 正員 毛利正光
 同上 正員 塚口博司
 大阪大学大学院 学生員 ○黒田英之

1. はじめに 住区内街路は交通空間としての機能だけではなく、生活空間としての機能をも果たしており、住みよい街づくりのためにはこのような道路を整備することの必要性は大きいといえよう。しかしながら、現時点においては、各種事業化手法が整いつつあるなかで、住区内街路に対する計画論は見当たらない状況であり、今後計画手法の体系化が必要な時期にきている。そこで、本研究では、住区内街路計画における計画課題を整理し、計画目標の設定に向けて、住民意識からのアプローチを行ってみた。

2. 調査の概要 住区内街路が比較的整備されている地区として大阪市旭区新森地区、未整備な地区として寝屋川市西部の地区を取りあげた。両地区の大きな差異は、地区の骨組みとなる道路、すなわち住区内幹線街路が新森では整備されているが、寝屋川ではその機能を果たすべき街路が機能に対応した道路構造になっていないことである。両地区において細街路に面したブロックと住区内幹線街路に面したブロックを抽出し、住民に対するアンケート調査を実施して、住区内街路の整備に対する希望等を調べた。調査は1985年11月に実施した。アンケートの配布・回収状況を表-1に示す。

	配布数	回収数
新 細街路	242	199
森住区内幹線	160	136
寝 細街路	250	193
屋住区内幹線	160	127

3. 住区内街路の機能 住民が住区内街路に対してどのような機能を期待しているかを調べるために、自宅前の道路の利用実態と本来の機能に対する意識を調べた結果が図-1である。どのブロックにおいても歩行者や自転車の通行機能を期待する割合が高いが、住区内幹線街路では車の通行機能を期待する割合がさらに高く、細街路では子供の遊び空間、近所付き合いの場、日照・風通しの空間としての機能を期待する割合も高い。また実態と比較すれば、日照や風通しの空間、防災空間としての機能を期待する割合が高い。

4. 住区内街路の整備に対する住民意識

図-2は、道路整備に対する具体的な希望を調べたものである。両地区に共通する項目として大型車の通行規制、駐車違反の取締り強化、街路灯の設置、自動車の速度低下、歩道上の障害物の除去といった項目に対する希望が多い。このことから、住民の立場からみた住区内街路における交通問題の所在が明確になってくる。これを対策の面から整理してみると

- ・大型車を中心とした通過交通の流入抑制
- ・自動車の走行速度の低下

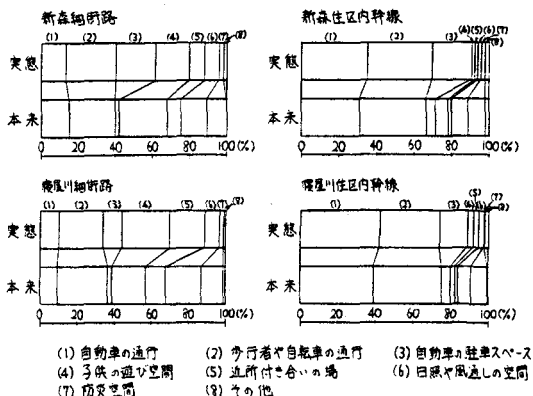


図-1 自宅前の道路の実態と本来の機能に対する意識

